

令和7年度 神戸市 英語教育改善プラン

目標

発信技能（「話すこと」）を強化する授業を推進するとともに、国際交流を活性化する校内環境を整備することで、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む)
(専科教員含む)
(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①「英語の勉強は大切だと思う。」割合が増加。(%)

R5	R6
73.5	75.4

②「英語の勉強が好き。」の肯定的回答が増加。(%)

R5	R6
70.0	70.3

(全国学力・学習状況調査より)

未だ改善が必要な点

①「英語の授業の内容はよく分かる。」は4割程度となっており、言語活動を中心とした授業を引き続き進めていく。(%)

本市	全国
43.4	43.6

(R6全国学力・学習状況調査より)

②ALTとの協同授業における発信技能のさらなる向上と授業以外での交流機会の充実。

③学びの連続性を意識した授業の在り方(校種間連携)。

2. 要因分析

①②神戸市の好事例を使って研修を進めたことで、効果的な発問やより良い児童との関わり方が広がった。

新しい教科書を使用するにあたり、神戸市版「CAN-DORリスト」やパフォーマンステストの内容を見直し、改良した。これらが、教員の困り感に寄り添うものとなり、活用が進むことで、授業改善や児童の肯定的な意識変化へとつながったと考えている。

①音声、文字、語彙に慣れ親しむための活動にかかる時間が多くなっていったため、表現力や思考力を高める授業を展開することで、児童の主体性や授業の理解力の向上を図っていく。

②外国語(外国語活動)の授業の中で異文化に親しむことに取り組んできた。授業以外の場面でもALTとの交流機会等を増やし、より異文化理解を深めていく。

③校種間で授業の系統性が異なる場合があるため、小中高の連携を深め、学びの連続性を高めていく。

3. 目標を達成するための施策・事業

「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、以下の5つの視点で本市の英語教育を進めていく。

1. 生きた英語に触れて学ぶ機会の充実 ②

・異文化に触れることのできる校内環境を全校で整備。その内容をきっかけとし、児童がALTと日常的に英語で対話する機会を設け、校内の国際交流活性化を推進。

2. 伝え合う楽しさを実感できる授業の推進 ①・②・③

・「英語に関する意識調査」を4～6年生で年間2回実施し、意欲面の変化を分析。

3. 4技能5領域の達成状況の把握 ①

・R7年度より、新たに神戸市学力・学習状況調査(英語)を中学1年生で実施。問題の一部を小学校での学習内容とし、結果を分析し、現状を把握。

4. 「話す力」の育成 ①・②

・「話す英語キャンペーン」として、授業で習得した表現を日常的に使える場面を設定。併せて、複数のALTと交流できる体験プログラムを実施。

5. 教員の英語力及び指導力の向上 ③

・校種間の接続を円滑にするために、小中合同必修研修を実施し、各校種のCAN-DORリストをつなげ、それぞれの到達目標に基づいた授業案の作成。

参考URL:

神戸市教育振興基本計画



「英語教育の推進に関する取組方針」



令和7年度 神戸市 英語教育改善プラン

発信技能（「話すこと」「書くこと」）を強化する授業を推進するとともに、国際交流を活性化する校内環境を整備することで、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合（R6：56.6%⇒R7：60%）

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒数の割合が増加。
(R5:54.1%⇒R6:56.6%)

② 英語担当教師の英語力の状況が改善。
(R5:52.1%⇒R6:56.5%)

未だ改善が必要な点

① R6全国学力・学習状況調査の結果より、以下の言語活動の実施状況について、引き続き改善が必要。

<肯定的な回答の割合(%)>

	R5	R6
話すこと [やり取り]	55.0	63.3
話すこと [発表]	72.5	78.4
書くこと	78.2	81.3

② ALTとの協同授業における発信技能のさらなる向上と授業以外での交流機会の充実。

2. 要因分析

①②「英語教育の推進に関する取組方針」を策定(R5.9月)

- ・本市が目指す英語教育の目標や、目標達成のための視点・方向性について周知。
- ・授業改善が少しずつ進み、生徒の英語力および英語担当教員の英語力や指導力の向上につながったと考えられる。

① 発信技能の強化につながる授業改善の手立てについて、研修等で進められているものの、全国学力・学習状況調査の結果においては、学校間の差が見られた。

② ALTとの効果的な協同授業の実践例や、ALTの授業以外での取組みに関する好事例を十分に周知することができなかったため、今後は研修等で広めていく。

3. 目標を達成するための施策・事業

「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、以下の5つの視点で本市の英語教育を進めていく。

1. 生きた英語に触れて学ぶ機会の充実 ②
 - ・ALTとの協同授業の充実のため、英語担当教師とALTとの合同悉皆研修にて、それぞれの役割を明確にした研修を実施。
 - ・異文化に触れることのできる校内環境を全校で整備。その内容をきっかけとし、生徒がALTと日常的に英語で対話する機会を設け、校内の国際交流活性化を推進。
2. 伝え合う楽しさを実感できる授業の推進 ①
 - ・「英語に関する意識調査」を全校で年間2回実施し、意欲面の変化を分析。
3. 4技能5領域の達成状況の把握 ①
 - ・英検IBA(RL)を全校で3年間実施し、英語力の伸びを分析・授業改善に活用。
 - ・GTEC Coreを一部の学校で継続実施し、経年比較に基づく授業モデルを確立。
4. 「話す力」の育成 ①
 - ・発信技能（「話すこと」「書くこと」）の強化のため、効果的な指導について全校で実践。
5. 教員の英語力及び指導力の向上 ②・①
 - ・校種間の接続を円滑にするために、小中合同悉皆研修を実施し、各校種のCAN-DOリストをつなげ、それぞれの到達目標に基づいた授業案の作成。

参考URL:

神戸市教育振興基本計画



「英語教育の推進に関する取組方針」



令和7年度 神戸市 英語教育改善プラン

発信技能（「話すこと」「書くこと」）を強化する授業の推進を通して、国際的な活躍の基盤となる英語力の育成を目指す。

目標

- 英語担当教員の授業における英語使用状況（R6:67.7% ⇒ R7:80%）
- スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合（R6:54.8% ⇒ R7:75%）

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
（パフォーマンステスト含む） （AIを除く）

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

- ①英語担当教師の英語力の状況が改善。
（R5:78.1%⇒R6:87.9%）
- ②英語担当教員の授業における英語使用状況が改善。
（R5:65.4%⇒R6:67.7%）
- ③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合が増加
（R5:30.8%⇒R6:54.8%）

①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が減少(%)
（R5:38.0%⇒R6:36.2%）

	R5	R6
国際科 B1以上	100	100
普通科 A2以上	68.4	72.4
全体 A2以上	38.0	36.2

2. 要因分析

①②について
・令和5年9月策定の神戸市「英語教育の推進に関する取組方針」に基づく授業改善の成果。

③について
・各校の特色を生かしたパフォーマンス課題の例を、学校間で共有。教員同士がモデルに出会う機会の確保した成果。

①について
・国際科ではB2以上が100%、普通科ではA2以上が72.4%であるのに対し、その他の学科（総合学科、職業学科）を含んだ全体のA2以上は36.2%。
・校種間での英語力の差があり、各校の特色に応じた指導と評価の設定を引き続き工夫していく。
・新課程におけるCAN-DOリストを各校で徹底して活用していく。

3. 目標を達成するための施策・事業

「英語教育の推進に関する取組方針」に基づき、特に以下の2つの視点で本市の英語教育を進めていく。

- 伝え合う楽しさを実感できる授業の推進 ①・②・③
 - ・評価指標を取り入れた授業研究の推進。
 - ・客観的な指標に基づく生徒の英語力把握および授業改善を推進。
 - ・小中学校と同様に、年間2回の生徒意識調査アンケートを実施。
 - ・小中高の到達目標を見える化するためのCAN-DOリスト作成。
（各校種で作成しているCAN-DOリストをつなげる研究を進める。）
- 「話す力」の育成 ①
 - ・「指導の重点」に基づく授業改善。
（効果的な実践ポイントを示し、全校で取り組む。）
 - ・中学校用「授業改善スキルアップマニュアル」を踏まえた授業を高校でも実践。
 - ・市立高等学校8校の特色（各校のスクールポリシー）を生かしたCAN-DOリストの更新と活用。

参考URL:

神戸市教育振興基本計画



「英語教育の推進に関する取組方針」



神戸市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	55	38	55	36.2	60		65		70		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	27.9	30	13.3	35		40		45		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	85	96.2	100	71.0	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	70	30.8	70	54.8	75		80		85		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	80	83.3	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	83.3	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	90	78.1	90	87.9	95		95		100			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	80	65.4	80	67.7	80		85		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60	54.1	60	56.6	60		70		80		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	75	72	75		80		85		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	91.9	100		100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	35.4	70		75		80		85	
		達成状況の把握(%)	80	61	80		85		90		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	52.1	55	56.5	60		60		60		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	75	70.7	75		80		80		80			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100
		公表(%)	70	84	90		93		95		100
		達成状況の把握(%)	80	91	93		95		97		100